

日本政府、市民団体アリアダス・エン・カデナへ
情報教育・職業訓練センター建設のための資金を供与

平成28年5月31日(火)、午前10時、リベルタドール市スクレ地区に開設された、市民団体アリアダス・エン・カデナのカティア情報教育・職業訓練センターにおいて、日本政府が実施した草の根・人間の安全保障無償資金協力「リベルタドール市貧困層向け情報教育・職業訓練センター設置計画」の供与式が執り行われた。

式典には、在ベネズエラ日本大使館より林哲三郎在ベネズエラ日本国特命全権大使、アリアダス・エン・カデナよりイレアナ・ラ・ロサ・オラマス代表、ジョマラ・バルサン経営責任者、日本政府と共に本計画に協力した当地フォンド・コムン銀行よりビクトル・ギル頭取等が列席した。

供与額72,915米ドルは、主にスクレ地区の女性を対象とした雇用促進および生活環境向上を図るための情報教育・職業訓練センター建設の一部に充てられた。

供与式は、ジョマラ・バルサン氏の日本政府を始めとする支援団体に対する謝辞とプロジェクトの概要についての説明により開会した。初めに林大使が本事業のもたらす効果・貢献について言及し、その財源が日本国民の納めた貴重な税金であることから、当該施設が適切に使用されるよう希望すると述べるとともに、本計画の実現に関わり尽力した全ての関係者への謝意を表明した。続いて、ビクトル・ギル頭取が団体の活動を賞賛し、最後にイレアナ・ラ・ロサ・オラマス代表がこれまでに団体が受けた支援に対する謝辞を述べ、団体の活動の紹介やこれからの展望について語った。会場はハビエル・カルデナス神父(カティア・ニニョヘス・イ・マドレカブリニ小教区主任司祭)により祝福され、イレアナ・ラ・ロサ・オラマス代表、林大使、ビクトル・ギル頭取によるテープカットをもって閉式した。

アリアダス・エン・カデナは、創立以来10年に亘って2万432名以上の女性たちに対して情報教育を提供し、女性の人権問題や社会参画の推進に取り組んできた。今回の資金援助により建設された新しい情報教育・職業訓練センターでは、年間約900名のスクレ地区の女性が自立支援のための講座や訓練などのサービスを受けられる見込みである。また、本計画には日本企業(丸紅ベネズエラ会社)より7台のパソコンの寄付を受けており、これらのパソコンは前述のサービスに役立てられる。

日本政府による草の根・人間の安全保障無償資金協力は、基礎医療、基礎教育、貧困等、人間の安全保障に関わる社会開発プロジェクトの推進を支援することを目的としており、地方自治体、ローカルNGO、医療施設、公立小学校等を対象にした草の根レベルの援助である。1999年より現在まで、ベネズエラ国内の50件のプロジェクトに対し約352万米ドルにのぼる資金援助を行っている。



挨拶をする林大使



挨拶をするオラマス代表



聖水で祝福をするハビエル・カルデナス神父



丸紅ベネズエラ会社により寄付されたパソコン



テープカット



左より

マリア・エスカロナ氏(カティア事務所長)、ハビエル・カルデナス神父、オラマス代表、林大使、ギル頭取